

<第4154回>

目的地：赤岳・硫黄岳（八ヶ岳）

担当者：時本長裕

実施日：2021年7月22日（木）～24日（土）

形式：テント泊（ベースキャンプ）

費用：¥38,500.

内訳 JR東海・JR東日本 大阪市内⇄茅野 6,600円 × 2 = 13,200円
JR東海 新幹線・特急料金 新大阪⇄塩尻 4,930円 × 2 = 9,860円
アルピコ交通(タクシー) 茅野駅⇒美濃戸口 1,552円 (9,310/6)
赤岳鉱泉 テント2泊 4,000円、 入浴料金(茅野ステーションホテル) 500円
アルピコ交通(バス) 美濃戸口⇒茅野駅 1,000円
7/23 夕食料金(赤岳鉱泉山荘) 2,500円、 コインロッカー料金(茅野駅) 300円
食料代・その他(ガス代等を含む) 約 5,500円

参加者：6名

赤松朋子(総務)・岩谷多恵子(会計)・西山由加里(記録)・山内一史(会誌特集記事)・脇門律子(サブリーダー)・時本長裕(例会担当)

行程：

7/22 天気：晴れ後曇り時々雨

新大阪(6:51)＝京都(7:06)＝[新幹線・のぞみ84]⇒(7:39)名古屋(8:00)＝[しなの3]⇒(9:54)塩尻(9:58)＝[JR東日本・普通]⇒(10:31)茅野(10:45)＝[タクシー]⇒(11:15)美濃戸口[約1,490m](11:28)⇒(12:14)美濃戸山荘[約1,720m](12:37)⇒(14:53)赤岳鉱泉 [約2,220m・テント泊]

7/23 天気：快晴後ガス後晴れ

[4:25起床]赤岳鉱泉(5:38)⇒(6:15)行者小屋[約2,350m](6:21)⇒(7:15)中岳の科尔[約2,650m](7:23)⇒(7:52)阿弥陀岳[2,805m](8:12)⇒(8:31)中岳の科尔(8:41)⇒(9:18)又四郎尾根三叉路(9:28)⇒(9:58)赤岳[2,899.4m](10:06)⇒(10:09)赤岳頂上山荘[約2,895m](10:18)⇒(10:37)赤岳展望荘[昼食](11:00)⇒(12:09)奥の院[2,830m](12:12)⇒(12:52)硫黄岳山荘[約2,660m](13:10)⇒(13:32)硫黄岳付近三叉路[約2,760m](13:41)⇒(14:58)赤岳鉱泉 [テント泊]

7/24 天気：快晴後晴れ

[4:50起床]赤岳鉱泉(6:53)⇒(8:25)美濃戸山荘(8:41)⇒(9:30)美濃戸口(10:20)＝[アルピコ交通]⇒(10:58)茅野駅[温泉・昼食](14:26)＝[JR]⇒(14:51)塩尻駅(15:03)＝[特急・しなの16]⇒(17:06)名古屋駅(17:17)＝[新幹線・のぞみ235]⇒(17:51)京都駅⇒(18:06)新大阪駅

感想：

【出発まで】北アルプスや南アルプスに行く機会は多かったのですが、不思議とその中間にある八ヶ岳には行く機会がなく、2019年(令和元年)7月に計画しましたが台風直撃により中止となり、昨年はコロナ禍で行かず、今年になって2年越しでようやく登ることができました。2019年7月も今回も元々往路は夜行高速バスに乗りし小淵沢経由で行く予定でしたが、出発の1カ月前になって高速バスチケットを購入しようとする2カ月前から販売開始で既に満席となっていました。さわやか信州号ならいざ知らず、通常の都市間高速バスが2カ月前から予約受付をしているとは想像もつかなかったため油断していましたが、往路交通手段が予約できないとなると行けなくなりますので大ピンチに追い込まれました。そこで対応策として、①山行期間が4連休中の3日間ということで、1日後ろにずらして実施するか、②費用が高くなるが翌日の朝からJR特急で大阪・京都を出発し同じ日程で行くか、という2案を参加申し込みをされていた皆さんに提示し、最終的に②案を選択して、山行の日程は同じで、山行1日目の朝から出発することとなりました。当初計画していた往路交通機関の予約がとれなかったにも拘わらず例会が実施できるようになり、安心するとともに良かったと思いました。

【7月22日】朝、大阪を出てJRとジャンボタクシーを乗り継いで南八ヶ岳の登山口の美濃戸口に到着したのは11:15。八ヶ岳は首都圏から近い山と言われますが、関西からでもそう遠くないと実感しました。標高1,490mの美濃戸口から本日の宿泊地の標高2,220mの赤岳鉱泉までは730mの登りですが、美濃戸山荘までは一般車も乗り入れる未舗装の車道、そこから先の堰堤までも林道が続きますので傾斜が緩く歩きやすい道です。堰堤から赤岳鉱泉までは、柳川の北沢沿いに何回も川を渡りながら登りますが、傾斜は緩やかなので、やはり登りやすく歩きやすい道でした。

やがてテントが遠目に見え、赤岳鉱泉のテント場の端に到着したことに気がきました。近くでテント

を張っている人に聞くと、小屋に近いところにトイレや水場があるようですが、その小屋はまだ上の方にあり、その一方で小屋に近いところは既にテントが設営されていたため結局ある程度水場やトイレから距離のある場所にテントを設営することになりました。テントは4名分または2名分ずつくらいしかまとまったスペースはなかったため、男性2名と女性4名が少し離れた場所に設営しました。なお、夕食は山荘の前のテラス席でいただきました。標高2,220mのため涼しく快適で、夕暮れになると寒いくらいでした。夕食の前後に雨が降り、20:00過ぎにも降っていたため翌日の天気が不安でしたが、夜中に目が覚めると雨は降っておらず翌日の好天を期待して再び眠りにつきました。

【7月23日】 翌朝(山行2日目の朝)は快晴でした。昨日の重い荷物と異なり、山行2日目は山内さんを除いて軽い荷物で登りました。山内さんは若く体力に余裕があるため気にせず重い荷物を持たれたのでしょう。赤岳鉱泉からテントは昨日設営したまま出発し、少し登って中山乗越を経由して行者小屋に下がります。行者小屋では何人かの方がオリジナルの手ぬぐいを購入されていました。行者小屋からは中岳のコルに向かって登ります。赤岳鉱泉出発直後から左手に見える赤岳はシルエット状でしたが、最初に登るほぼ正面の阿弥陀岳は順光で、青空を背景にひときわ目立ってそびえていました。また左後方には赤岳から縦走する硫黄岳が同様にシルエット状に見えていました。

今まで正面に壁のように見えてきた尾根との出会いである中岳のコルに到着した皆さんからは、一様に感嘆の声が挙がりました。おぼろげでしたが、正面に富士山が目飛び込んできたためです。中岳のコルでは皆さんは、富士山を撮影したり、富士山と一緒に自身を撮影してもらったりと活気づきました。

中岳のコルから赤岳とは逆方向の阿弥陀岳に登りました。阿弥陀岳は想像していたよりも急峻な山で、小石が浮いている場所もあり登り下りし難いうえに小石が転がり落ちてきたこともありました。登っている人は誰もヘルメットを装着していませんでしたが、後から考えてみるとこの山こそヘルメットがあった方が安全でした。

阿弥陀岳頂上では、素晴らしい展望が開けていました。赤岳や硫黄岳等のハヶ岳の連山はもちろんのこと、南南東に中岳のコルで見たのと同様の富士山、南に南アルプス、北西に北アルプスと、著名な山岳が360°見渡せました。南アルプスは近いだけに明瞭に見え、南南東に日本での標高第2位の北岳(3,192.4m)、その右に甲斐駒ヶ岳(2,967m)、更にその右に仙丈ヶ岳(3,032.6m)、北岳の左の山裾の向こうに頭を出している西農鳥岳(3,051m)、農鳥岳(3,025.9m)、少し離れて更に左の北岳の山裾の手前に位置する連山となっている鳳凰三山といった山が確認できました。いずれも南アルプス北部を代表する錚々たる山々です。

南アルプスに見とれていると、脇門さんが「槍ヶ岳」と声を挙げ北西の山を指さされました。確かに槍ヶ岳。私は言われて気が付いたのですが、とんがった穂先は特徴があり、さすがに目立っていました。今回のメンバーの半分の3名の方が、今回の山行後、中5日で槍ヶ岳例会に参加されると伺っており、その元気さに感心していました。また、脇門さんはお盆の時期に劔岳例会に参加される予定とお聞きしていました。今回の山行中、4人の方から次の山行に思いを馳せる話をお聞きしていましたので、槍ヶ岳例会も劔岳例会も、安全に楽しんでくださいと思っていました。(例会報告作成時注記：劔岳例会は緊急事態宣言発出のため中止となりました。)

下りに注意しながら中岳のコルまで戻り小休止していると、赤岳から下りてきた40代と思われる男性がヘルメットを着用したままで、「赤岳や赤岳までの山々は大変険しい。ハシゴやクサリの連続でもう当分行きたいとは思わない。文三郎尾根道と合流したあと少し進んで赤岳に近づいた地点からヘルメットは必須。」と話しかけてきたので、阿弥陀岳に登り下りし難かっただけに、これから登る赤岳は更に険しいと意識して身構えました。

中岳のコルを出発してよいよ赤岳に登ります。途中、中岳を経由して文三郎尾根道と合流した地点で休憩しました。ここから傾斜がきつくなり、赤岳頂上に近づくにつれ傾斜はさらにきつくなり、いつヘルメットを着用しようかと考えていたのですが、落石の危険性は先程の阿弥陀岳の方が高く、その比較と先程中岳のコルで赤岳付近は厳しいと聞いていたことを考え合わせ、まだ着用しなくても良いだろうと思って進んでいると人影が多く見え頂上に到着しました。思わず同行のメンバーで近くにいた人に「ヘルメットを着けずに登ってしまった。」と言ったほどでした。既に文三郎尾根道との合流地点からガスが本格的にかかり出していたため、赤岳頂上では眺望はまったくありませんでした。そのことは残念でしたが、赤岳の頂上に立てたことは事実で、私も同様ですが、皆さんも達成感を味わっておられたようでした。

その後も次第にガスが濃くなり、険しい区間の、地蔵の頭～三叉峰の区間に差し掛かった時は今にも雨が降り出しそうな状況になっていました。眺望はまったく望めませんでしたが、この辺りから奥の院を過ぎたところまでの難路は垂直のハシゴを含むいくつかのハシゴやクサリがある区間で、風が吹いて

おらず、雨も降っていないことは幸いだったと思います。奥の院を過ぎた所にある南八ヶ岳で最も陰しいと言っても良い難所を過ぎると、道の両側にコマクサの群生がありました。今までも登山道から見える位置にコマクサがところどころに咲いていましたが、これほどまとまって咲いているのを見たのは多分他の山も含めて初めてでした。コマクサの群生を見た後、少し雨がパラつきました。急いでザックカバーを付け、カッパを着ましたが雨はすぐ止み、それどころか薄日がさして暑くなったため、暫く進んだ硫黄岳山荘で全員カッパを脱ぐことになりました。

硫黄岳山荘出発後しばらくはなだらかですが、硫黄岳に近づくと今回の行程最後のまとまった登りがあります。傾斜はそれほどきつくないのですが、1日歩いて体力を使っていることと連続した登りとなっているため少ししんどさを感じました。坂を登りきると本当の硫黄岳の南西に位置する場所でしたが、「硫黄岳」の標識が立っていました。これでもう登りはない、ということで皆さん安心した表情や笑顔を浮かべておられました。それと、目標とする2つの山頂に登ったということで満足感もあったことと思います。

硫黄岳を下り始めると視界が広がってきて、あたりがくっきりと見えるようになってきました。また、やや後ろ寄りの方向の赤岳を振り返って見ると頂上まではっきりと見えました。今、赤岳の頂上に立っていたらという思いがチラッと心によぎりましたが、ないものねだりというものです。同じようなことを考えておられた方もいらっしゃるらしく、「赤岳からの眺望を見るという目標を立て、頂上で何時間か粘ったら良い眺望に恵まれたかも知れない。」との声が聞こえてきました。

山行1日目の夕食は自炊でしたが、2日目の夕食は赤岳鉱泉(山荘)の夕食がおいしいと事前に調べられた脇門さんのお薦めで、赤岳鉱泉(山荘)でいただくこととしました。料理はステーキをメインにしています。評判どおりおいしかったです。また、ボリュームもありました。食事風景を写真撮影していただこうと思って山荘の人をお願いしたところ、コロナ禍の時期だけに断られる可能性もありましたが気軽にに応じていただきました。

【7月24日・終わりに】 翌朝(山行3日目の朝)は快晴の中、テントを撤収し、前々日の逆コースで美濃戸口まで下り、バスに乗車して茅野で入浴したあとJRで帰阪の途につきました。南八ヶ岳はアルプスの入門山行と言われることもあり、どのような山域かということに関心がありましたが、山小屋と山小屋の距離が比較的短いことや適度な岩場に加え、ハシゴ、クサリがあり、なるほどと思いました。また、極端な土砂降りとは別として雨が降っていても登ることができると思います。特に、私達が登った時はガスは出たものの雨に降られなかったといってよく、風もあまりない穏やかな状況だっただけに入門山行に相応しいと感じることができたと思います。ただ、標高2,800mを越える山々が続いているだけに決して甘く見てはいけないということも事実で、気象状態が急変することもあり、強風が吹いていれば通行困難な区間もあり、基礎トレーニングや装備等について十分に準備をし、登山時は慎重に対応していくことが求められます。

赤岳・硫黄岳(八ヶ岳)例会は私にとっては1人でテントに泊まる初体験となりました。今まで経験してきた共同テントに比べ、1人使用のテントは寝心地も使い勝手もともに抜群に良く、テントに戻れば誰かが片付けるのに合わせて自分の荷物をザックに収容しなければならない等の制約からも解放され気楽でした。それでいて食事やそれ以外のテント場での活動を同行のメンバーとともにできるという楽しさもありました。

赤岳に行くまでは天候に恵まれるかどうか心配でしたが、眺望は一部の区間に限定されたものの、ほぼ天候に恵まれたといってもよく、全行程を無事歩けて良かったと思います。また、山行1日目が遅い到着なのでテントが設営できるかどうか不安で、事前に赤岳鉱泉の山荘を確認したところ、「赤岳鉱泉のテント場では、ここ20年間、混雑のためテントが張れないということはなかった。しかし、混む時期なのでできるだけ早くテント場に到着する方が良い。最終的にはギリギリ張れるという状態になる。」と言われ、多分テントは張れるものの傾斜がきついとか接地面の凹凸が激しい等条件が悪いところしか残っていないのではないかと危惧していましたが、テント場が広く、傾斜が緩やかなうえ草で快適なテント場が残っていたので良かったと思いました。皆さんには初めてのテント泊や慣れない泊り例会の方もいらっしゃると思いますが、役割分担を含めいろいろとご協力いただきましてありがとうございました。お陰様で行程中あまり気を使わず会話ができて、いろいろな楽しいこともあり良い例会にさせていただけたと感じています。ありがとうございました。

特記事項

赤岳鉱泉は山荘のテラスの近くの水道管の蛇口3つから飲用可の水が24時間豊富に供給されていて、自由に使用できます。